

学生提案成果報告⑧

大谷景観復活プロジェクト

～宇都宮市大谷地区における空き地の景観維持と観光拠点開発の実践活動を通して～

宇都宮共和大学西山ゼミ3年
伊佐高蓮斗 石川雅也 岩上善司 大場涼太郎 津久井太一 松岡 匠 谷田部皓太 和田鉄人

【概要】本プロジェクトは、栃木県を代表する観光地として脚光を浴びている宇都宮市大谷地区の景観維持と観光振興を目的とした実践活動である。発表者らは行政が手を出さず、空き地を有効活用し、地域の活性化を図ることを目指している。また、景観維持と観光振興を目的とした実践活動である。発表者らは行政が手を出さず、空き地を有効活用し、地域の活性化を図ることを目指している。また、景観維持と観光振興を目的とした実践活動である。発表者らは行政が手を出さず、空き地を有効活用し、地域の活性化を図ることを目指している。

【栃木を元気にするには】本プロジェクトに関連したすべての活動は、地元自治会や行政、まちづくり団体、クリエイター、民間事業者などとの協働事業である。様々な主体が大谷の活性化を通して関わり合い、相乗効果によって新たな価値が創造されていくと考えられる。本プロジェクトは、多様な主体の協働によって地域が活性化していく一端をパイロットスタディヤーとして示すことができた。

1. 背景
発表者らは2018年4月より、大谷地区（以下、大谷）の景観維持と観光振興に向けた空き地・空き家の活用を目的に「大谷景観復活プロジェクト」と銘打ち、活動を展開してきた。近年の大谷は、他の地域に比べて空き地の発生率が高く、また、歩道が整備されていないことから、歩行者の安全が脅かされている。第二に、上述のように観光施設が少ないことである。観光客の多くは大谷資料館など限られた観光施設にしか立ち寄らず、他の場所では食事や宿泊をしない。第三は景観問題である。大谷の最大の魅力は、奇岩群や大谷の露頭であるが、その多くが草木に覆われている。また、主要道路である大谷街道沿いには大谷石が多く積まれた「ホーム」と呼ばれる場所や工場の跡地などが点在しており、これもまた長い期間放置され草木に覆われている。このような場所は、そのほとんどが私有地であり、行政が除草作業を行うのが困難である。
2. 大谷地区における課題
大谷の課題は、第一に交通問題である。大谷地区では観光客の増加に合わせた交通渋滞や路線バスの混雑が大きな課題となっている。また、歩道が整備されていないことから、歩行者の安全が脅かされている。第二に、上述のように観光施設が少ないことである。観光客の多くは大谷資料館など限られた観光施設にしか立ち寄らず、他の場所では食事や宿泊をしない。第三は景観問題である。大谷の最大の魅力は、奇岩群や大谷の露頭であるが、その多くが草木に覆われている。また、主要道路である大谷街道沿いには大谷石が多く積まれた「ホーム」と呼ばれる場所や工場の跡地などが点在しており、これもまた長い期間放置され草木に覆われている。このような場所は、そのほとんどが私有地であり、行政が除草作業を行うのが困難である。

以上で述べた通り、交通問題の解決は自治体や警察、交通事業者が担うものであり、発表者ら学生ではどうすることもできない。一方で、微力ではあるが草木で覆われた空き地の草木を刈って、景観を向上させ、さらにその空き地を活用し観光スポットを増やすことはできる。このような現状から発表者らは西山ゼミでは大谷に点在する空き地の管理とそれを活用した観光振興を進めることになった。

3. 課題解決のための事業
2018年度、大谷地区において草刈りやその他の景観維持活動を行う中で、「ただ草刈りや清掃活動を毎年繰り返すだけでは持続性がない」と結論づけた。空き地の管理主体が、そこで非営利もしくは営利のために活用することにより、はじめて持続性が担保される。この内容は2018年12月に行われた宇都宮市主催の「大学生のまちづくり提案発表会」でも提案した。そこで2019年度は空き地を管理するだけでなく、大谷地区の景観を活かした空き地の活用を行い、観光振興に結び付けることを目的とした活動を再開した（プロジェクトの主な活動は表1を参照）。

2019年度活動の皮切りは、大谷街道沿い6か所の除草作業であった。約90人規模での開催となり、

表1 「大谷景観復活プロジェクト」の主な事業

年度	月	事業名	連携・関連団体・企業	報道の有無
18年度	4-7	大谷地区の現地調査	—	なし
	7-8	大谷地区に関する意見交換、ヒアリング	宇都宮市、市議会議員、大谷商工観光協力会ほか	なし
	8	第1回大谷地区草刈りの実施	宇都宮市、川出遺園、大谷商工観光協力会ほか	下野新聞、テレビ
	9	大谷のPR動画制作	宇都宮まちづくり推進機構、視覚電気商会ほか	なし
	9-11	景観維持に関する調査	茨城県庁、茨城県牛久市、長原農産局、宇都宮市	なし
	12	大学生のまちづくり提案発表会(第1位)	宇都宮市議会政策部	下野新聞
	5	大谷石研究発表会での研究発表	NPO法人大谷石研究会	なし
	6	栃木県立大学地域連携活動支援事業(採択)	栃木県総合政策部	なし
	7	第2回大谷地区草刈りの実施	大谷自治会、大谷商工観光協力会、大谷石材協同組合	下野新聞
	8	空き地活用事業「大谷マイニングサイト」の開催	大谷自治会、宇都宮市民ジャズオーケストラ、和灯籠、新開、無名もろし(株)IC(アール)ほか	下野新聞、テレビ
	10	ポケットパーク(無料休憩所)の開設	下野大谷石材台資会社、大谷石材協同組合、速辺建設	下野新聞(予定)
19年度	7	アジアンフードフェスティバル大谷の開催	栃木県外国人まちづくり協会	未定
	11	映画観賞会の開催	映画「嵐妻恋歌」そして今!の贈賞を呼び掛ける制作委員会、リコー・シヤパン・株	未定
		展望台の開設(予定)	未定	未定



写真1 草刈りの様子



写真2 大谷マイニングサイトの様子



写真3 ポケットパーク建設予定地に業者と設備設置を行う様子

終了後には地域住民、市民団体との交流バーベキューを実施し、空き地の活用を行った(写真1)。その後8月14、15日は大谷石の採掘跡地にて、「大谷石採掘場でカクテルと餃子を堪能しながらジャズを聴く」をコンセプトに、「大谷マイニングサイト」を開催し、多くの方に来場いただいた(写真2)。大谷マイニングサイトで来場者にアンケート調査を行った結果、大谷において無料で休憩する場所が少ないという意見が多かったことがわかった。そこで2018年度より管理している空き地を無償で借り受け(土地使用借借契約を締結)、舗装やベンチとなる石の無償提供を受け、さらに施工を市内大手建設会社に協力していただき、ポケットパーク(無料休憩所)を開設した(10月下旬開設予定、写真3)。

- その他、10月以降も3つの事業の実施を予定している。その結果は、発表当日に報告する。
4. 活動で得られたこと
本プロジェクトの価値は、民間や行政に先駆けて、大谷の新たな活用方策を考え、それを口だけでなく行動で示した点にある。大谷は施設事故以降、負のイメージが付きまとい、大谷石の景観が観光資源になると考えている人はそう多くはない。地元の方々にはありふれた日常の場所、風景かもしれないが、発表者からすると多くの魅力と可能性を秘めた資源である。そうした可能性に惹かれ、実際に本事業で連携した民間事業者が大谷にレストランを開業する計画が進んでいて、その成果が表れている。このほかにも、発表者らの活動がヒントとなり、大谷の観光開発、活性化が広がることを期待している。もう一つ、クリエイター、民間事業者が協働したこと、より魅力的な事業を行うことができたことである。大谷に限ったことではないが、違った分野や立場、経験・知識を持った主体がコラボレーションすることによって、何倍もの力が発揮されるのが本事業を通して証明できた。大谷を今後より発展させていくためには、大谷内外の主体が同じベクトルを向いて連携し、新たなアイデア、価値を創造していくことで、当地域の持続的な発展が加速していくと考えている。